

大野木グラウンドワークだより

平成 20 年 11 月 12 日 発行 NO 26 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

11 月 9 日 朝一番に日本ガスケツト（株）の山口常務夫妻が豊田から応援にお越しいただきました。足元は長靴、作業着着用でびっくりいたしました。挨拶もそこそこに、早速「今日は何をお手伝いしたらよいでしょうか」と気軽にグループに溶け込んでいただき、大きな戦力となっただき感謝。奥様も「私も作業を手伝います」とのことでしたが、ちょっと今日の作業は女性にはハードですので賄いの応援に回っていただくことに。

デッキの完成目前なれど旬の竹切に集中することに、里道をまず確保するため枯れ竹の除去、ブッシュの切り払い、その先に太くて長い良質の竹が見えてきます。引き出しは太いものは二人がかりです。

こういう作業は人が揃わないと難しいですね、ご都合で途中二人ほど抜けられましたが 11 人の作業で大きな成果があがりました。

長浜から参加してくれた若者：廣部和成さんが「いいですね！気持ちよい汗をかきました」と言ってくれた言葉がほんとにうれしかったですね。これからもよろしくお願いします。

枯れ竹が縦、横に重なりジャングル状態のパズルを解くように一本、一本外して運び出す作業、不用のものはドンドン燃やして、火力たるものすごい、焚き火がご馳走の季節になってきました。内と外からの熱で寒さなんて

ハードな作業になりましたから、二回の休憩をはさんで昼食に、杏香ちゃんと弘聖君はブタ汁の大根皮むき、細切り、カブの皮ひきのお手伝いをしてくれたそうです。それから、翔吾ちゃん、大輝君のあそび相手を実乃里ちゃんと仲良くしてくれました。

メニューはブタ汁、ハムマリネ、ぜいたく煮、柿とカブのサラダ、里いも煮、カボチャ煮、赤カブラの酢漬け（三家三種の味、これがそれぞれ絶品）

食事も子どもたちと一緒に、子どもたちは早く食事は終えてグルグル回ってにぎやかな、なごやかなひととき。

食後に愛代さんのお世話育ちのアジサイを植栽しました。いよいよシーズンですから実のなる木を植えたいと思います。本日の参加者は 18+5 人でした。

吉祥草が花をつけました。いいことがあるそうです。冬イチゴが一杯、自然の甘さ、太陽の甘さは格別です。

子どもの創造性と地域性について

絵画教室の先生のお話を伺いました。こどもたちの絵には生体言語といって心や身体のこと
が表れてくるそうです。例えば「ものを運ぶ車とか船」はお母さんのことで父親は「太
陽」だそうです。

夫婦げんかを目撃して母親が言った言葉（例えば）「もう家を出ていきます」といった言葉
がこどもの傷となって絵に表れてくるそうです。

創造性のない絵をかくこどもはピカチュー、どらえもん、ゲーム、テレビッ子に多いそう
です。

創造力を養うためには親の大人の言葉かけが大切で心に思い浮かべるイマジネーションで
あり「あの雲は何に見える」・・・
でも子どもの集中力は15分くらいだそうです。

また、こどもは無意識のうちに絵を通じてシグナルを出していますから、(アートセラピー)
しっかり読む必要があります。しかしだからと言って過干渉はだめだと、難しいですね。

こどもは未来の創造者です。遊びながら体験し、走り回り、挑戦し、考え、対話力や社会
性を身につけ知恵を会得し、愛情を感じて自立した大人に成長していくのです。

地域でしっかり育てていくのが我々の役割だと思います。

クラウド（雲の上）の衝撃

膨大なデータ、その分析、ソフト開発を最新のスーパーコンピューターを利活用したサイ
バー空間で処理してしまうというもの。コストは1/6以下、パソコン不要、ディスプレイ
とキーボードだけでOK。とにかくデータを生で送ればそれでよい、例えば「電話の声を
全て文書で保存」てなことはいとも簡単である。これはまさにビジネスモデルの大変化に
なります。安価に庶民、中小企業がスーパーコンピューターを使うことができる時代にな
ってきました。今のところセールスフォース社が先行、マイクロソフト社が追う展開。

ただし、どれだけ進んでもヒューマンエラー避けられません、情報流失、ハッカーの標的、
システムエラーなどの課題懸念はあります。

蚊の話

どうも、今年はいつまでも暑かって、小さな蚊が多くて大変でした。作業日は朝早く伊藤 晋さんが「おまじない」をしてくれていますので安心ですが、他の日に行きますと、ちよっとの隙にあちこち蚊に刺されて、後から「かゆーい、かゆーい」とボロボロかきまくりでした。ようやく過去形で言える時期になりましたが、そこで少し蚊のことを調べてみました。

いわゆるヤブカといわれるヒトスジシマカは実はもともと熱帯地方を中心に生息する蚊だったのが、温暖化で温帯地方に進出してきたもので国立感染症研究所昆虫医科学部の調査では国内分布域は 1950 年の栃木県から 2000 年には秋田県や岩手県まで拡大したとしています。

ヒトスジシマカは熱帯地方で感染者が増えているデング熱やアメリカで多くの死亡患者を出した西ナイル熱を媒介することも明らかになってきました。マラリアは病原体の原虫を媒介するコガタハマダラカが気温高に弱く繁殖にブレーキがかかるから再流行は起こりにくいという。

ところが、日本脳炎ウイルスはブタを宿主としてコガタアカイエカが感染させるから暑い夏など抗体陽性率が高まるという。温暖化によって高まる感染症リスクが高まる病気のほとんどは蚊が媒介しており、本格的なモスキートコントロールが重要だと専門家は指摘しています。

モスキート mosquito (蚊) または軽い体重とか音のことをいいます

政所夢塾公園では伊藤さんのおまじないと焚き火、蚊取り線香でコントロールしているというわけです。

蚊をいかに排除するか、これからの冬場は心配いりませんが感染症のこと今一度おさらいをいたしました。

温暖化によって熱帯病が北上中という、感染症に対して戦略的な蚊対策が必要といわれています。

シカの大増殖に思うこと

秋になると昼間でもシカの鳴き声がピーッピーッと聞こえます。発情期にオスが発するメッセージだそうです。シカの食害は北海道から九州まで全国に広がり、苗木はもちろん樹齢40～50年の木も樹皮をはがして食べることから林業に深刻な影響を与えている。

大野木でもあちこちで鹿が電柵を越えてきて畑を荒らしていて、区民の方から苦情も多く伺います。

生態系に著しい影響を及ぼさない密度は1平方キロメートル5頭以下といわれているが、メスは毎年1頭を出産し、その生存率は高いといわれます。

いかにして鹿の大増殖を止めることが出来るかである。そのためにはシカを資源として、肉を食べ、皮を使うことにあるのでは

背中から取れる背ロースは「ジビエ（野生鳥獣肉）料理」という西洋料理の高級食材という。ただ野生であるから衛生処理が問題のようである。

しかし、人肌にやさしい白なめしの鹿皮の開発、販売は以外に早まる可能性もあるようです。

平安時代の春日信仰で「神様の使い」と崇敬され共存してきた歴史を考えると、平成の時代も何とか共生していくことが出来るのではないかと思います。・・・

いかがでしょうか。

今回は当初12/7の予定でしたが他の行事等も重なりますので

12月9日(火)とさせていただきます。

ホダ木の整理、デッキの完成を目指します。

12月21日(日)は忘年会を予定しております

どなたもご夫婦で参加してください、作業と関係なしにどうぞ
メニューは「獅子鍋」です、甲津原まで相乗りでいきます、
10時半公民館集合、帰着13時半くらいの見当で

大野木グラウンドワークだより



私たち料理のお手伝いしました



里道作りの為竹さき作業に専念



初参加の広部さんと日ガスの山口常務と一緒に



継続は力なり



竹を切って里道が現れてきました



吉祥草が咲いていました。何か良い事があるようです



長くて重いので搬出に苦労しました



赤かぶ、白菜、天根、季節の野菜をふんだんに使われて美味しく戴きました



食事しながら来月の計画が出来ます

次回は十二月九日(火)です

高級建築資材として高値で買い上げ？



日ガスの柿もたわわに実りました



日ガス山口御夫妻と一緒に笑顔のメンバー